

企業トップに聞く 2023

7

昨年を振り返って。

「本業の部品生産は半導体不足の影響で、売り上げは3〜5%減で推移。部品を造るための原

材料、電力など動力費、輸送などのコストも高騰し、経営的には厳しい一年だった。今年も半導体

次第だが、受注は5〜10%増える見込み」

「昨年5月にワイン事業参入を発表し、反響が大きかった。2025年に販売を始める予定だが、引き合い、申し込みも既にある。ただ、もうけることが目的ではなく、異業種の仕事を通して仲間づくり、新たな発想や創造を持てる人材の育成が狙い。(異業種交流でも)ビジネスの可能性を探っており、クラッチ、摩擦材の固有技術を使った新商品造りも考え

「安平に従業員が移住しているが、18年の胆振

が100年に1度の大変革期を迎え、クラッチメーカーでなくなる日が来るかもしれない。『何とシフトで緩やかに落ちかできないか』と企業と農業で模索してワイン事業に発展し、町と包括連携協定を結んだ。安平の特産品チーズとセットでVはクラッチを必要とすまちおこしになる。ブドる。24年にハンガリー工

IWM量産25年立ち上げ

東部地震で被災し、だまう栽培だけでなく、ワイ場場でEV車用のクラッチ製造を始める。クラッチはなくなることはなく、

ダイナックス

いとうかずひろ 伊藤和弘 社長



創業50周年 グローバルに飛躍

減った分は(小型EV向けの)インホイールモーター(IWM)、開発中のイーアックスで補う」

「新設した苫小牧第6工場ではIWM生産を予定している。」「ヨーロッパ市場はCNを実現しなければ取引できなくなる。メガソーラー、バイオマスを導入しても、二酸化炭素(CO2)削減量は全体の約16%。苫小牧、千歳工場ですべて太陽光パネルをさらに導入する計画もある。今後は自然に左右されない再生エネルギー地熱発電に注目している」

工場は12ライン入るが、そうなるまで月産2万台、約50億円の投資。ベンチャーも含めて10社ほど引き合いがあり、(量産を)25年には立ち上げたい」

「6月に創業50周年の節目を迎える。」「当社のスローガンは『未来を今に』。1973年の設立当時、自動変速機(AT)が普及してい

ない時代に手掛け、成長できた。IWMも10年前に研究開発を始め、電動化に結び付こうとしている。地域のご理解を頂きながら、未来を常に先取りしたビジネス、商品造り、北海道の地にありながらグローバルに飛躍していく」

「昨年5月にワイン事業参入を発表し、反響が大きかった。2025年に販売を始める予定だが、引き合い、申し込みも既にある。ただ、もうけることが目的ではなく、異業種の仕事を通して仲間づくり、新たな発想や創造を持てる人材の育成が狙い。(異業種交流でも)ビジネスの可能性を探っており、クラッチ、摩擦材の固有技術を使った新商品造りも考え

メモ

本社千歳市。自動車部品のクラッチ板製造は、トランスミッション台数ベースで世界一。苫小牧東部地域(柏原)に製造拠点を構えている